

賀川豊彦 救貧活動開始100年

日本を代表する社会運動家の草分け、賀川豊彦（1888～1960年）が神戸で救貧活動を始めて丸100年になるのを記念した式典が22日、神戸市中央区港島中

神戸で
式典

町6のポートピアホールであった。賀川と面識があった聖路加国際病院理事長の日野原重明氏（98）らが、賀川の志を引き継ぐと訴えた。（河尻 悟）

賀川は神戸市兵庫区で生まれ、徳島県で育った。1909（明治42）年12月、神戸のスラムに住んで救貧活動を開始して以来、貧困問題や生協設立、労働運動、式典は、賀川の顕彰活動



賀川豊彦の活動をどう継承するかについて語り合う（左から）今井鎮雄氏、日野原重明氏、野尻武敏氏＝神戸市中央区港島中町6（撮影・岡田育磨）

「愛の行動」受け継ぐ

面識あった日野原氏講演 1600人、思想の意味考える

を展開する「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会」（実行委員長＝今井鎮雄・神戸YMCA顧問）の主催で、関係者や一般市民ら約1600人が集まった。

日野原氏は講演で、賀川と交流があった亡父善輔さんの話を紹介したほか、賀川は米国留学でリベラル・アーツ（一般教養）を教わったことがその後の活動に大きく影響したと指摘。「賀川という世界的人物を生んだ神戸。皆さんには大きなプライドを持ってほしい」

「賀川は平和のために子どもへの教育が大切だと説いた。現代もそうだと強調した。

続いて、神戸大学名誉教授で元コープこうべ理事長の野尻武敏氏（85）と日野原、今井氏が鼎談。今井氏が「賀川の『愛の行動』をわれわれがどう取るのかが問われている」と問題提起。野尻氏は「心の通い合い、つまり愛を広げることが日本のため、世界のために大切だ」と応じた。